

(様式)

平成30年度 津山市立加茂小学校 学校評価書

校長 久永浩輝 印

1 自己評価

I 評価結果

項目	成果と課題（達成状況）	評定
「確かな学力」を育成する。	ICT機器の導入に対応して、授業・理解に意欲喚起できた。職員の公開授業が多く、ともに指導案検討・公開授業参観など学び合いが進んだ。家庭学習の手引きを再編できた。	B
「やさしく思いやりのある子」を育てる。	「道徳」の研修をすすめることができた。「支援の必要な児童」に対して「校内ケース会議」をたびたび開催でき対応を支援した。保護者を関係機関によくつなげた。	B
地域や保護者と協力した児童の指導。	学年に応じて地域の特色を生かした体験活動が進んだ。「マイタウン津山」「特別非常勤講師」など今後へつなげる授業の基礎ができた。地域とともにある学校になっている。	A

(A：目標を上回っている B：ほぼ目標どおり C：目標を下回っている)

II 分析・改善方策

学習規律の定着とともに落ち着いた学習ができています。また家庭学習の取り組みについては、下学年は宿題と「学びたい思いプリント」、上学年はその上に「自主学習ノート」の取り組みが定着した。「東書プリント」を活用する学年が多くなり、今後、確実な学力の定着をめざす。文の読み取り、書くことなど課題も多く、学び直しが必要である。「終礼」における教職員の共通理解の時間は有意義であり、さらに一体感のある教職員集団をめざす。「家庭学習の手引き」をさらに整理し、家庭学習時間、1時間以上を確保していきたい。

地域とともにある学校づくりが進んだ。小中連携の発展を期すとともに、さらに連携・協力をすすめたい。

2 学校関係者評価委員会

八木恵三子・須田 京祐・平山 淑子・宇佐美七重・高矢美諭紀・照井 浩海

3 学校関係者評価

児童の落ち着いた様子がよい。学校組織全体で子どもたちの「学びたい思い」に応えている。教職員の「教えたいたい思い」を感じられる。広い意味で児童にさらなる学びの成果を期待する。

「確かな学力育成」 **A** 「思いやりのある子を育てる」 **B** 「地域と共にある学校」 **A**

4 来年度の重点取組（学校評価を踏まえた今後の方向性）

「学びたい思い」に「教えたいたい思い」で応えていく学校づくり

- (1) 落ち着いた学習環境づくりに努め、安心・安全な学校づくりを行う。
- (2) 学力の向上を図る。(授業改革。家庭学習の時間、1時間以上を目指す。読書の推進。)
- (3) 豊かな心の育成を図る。
- (4) 開かれた学校・地域とともにある学校づくりを推進し、保護者や地域から信頼される学校づくりをすすめる。